



DONK どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418
418, Komei-cho Tsu-shi
TEL 059-226-2766
FAX 059-229-0967

N°83 octobre 2008 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

会周辺の活動紹介 フランス語、ワイン会など

三重日仏協会の主催事業以外に、そのメンバーらによるさまざまな教室やサークルが活動しております。そのなかからいま参加者を歓迎している主なものを紹介します。費用など詳細については下記に問い合わせてください。(文中敬称略)

<フランス語講座など>

◇ダメム先生・津教室

毎週月曜日 18時(入門) 19時(初級) 津駅前第1ビル6F

講師: J-F, ダメム(三重大学講師) 問い合わせ: 0598-26-7170

◇四日市・豊田教室

毎週土曜日 9時半(初級)、11時(中級) 四日市市鶴の森1 豊田元子宅

講師: ミシェル・西脇

毎週月曜日 11時(講読、会話中級)

講師: 田名後正子

◇フランス人留学生による入門講座

10月より10回講座(詳細未定) 近鉄四日市駅西「地場産三重」

問い合わせ: いずれも 0593-51-8031 (豊田)

◇フランス書輪読会

第1木曜日 19時 津市広明町 井土真杉宅

主にフランス文学書の講読と歓談、講師なし。現在テキストは「千一夜物語」(仏語版)

問い合わせ: 059-226-2766 (井土)

<ワイン会>

◇ウチャマ・ワイン会 ワインと会話をともに楽しむ、中級?コース。

第1月曜日 20時 津市東丸の内 カフェレストラン・サンマルコ

◇TWAワイン会 25年の歴史をもつワイン会、上級?のワイン談義。

第3土曜日 21時 津市大門 レストラン入栄軒

問い合わせ: いずれも090-4867-1476 (滝澤)

<P4下段へ続く>

ドビュッシーのピアノ曲を発掘、初録音 ～伊藤隆之さんが5枚目のCD～

パリで活躍中のピアニスト伊藤隆之さん（四日市市出身）がこのほど5枚目（ドビュッシーの曲集としては4枚目）となるCDをリリース、その演奏とともに作曲者研究の真摯な取組みが「レコード芸術」誌などでも高く評価されています。ご本人からお便りをいただきましたので紹介いたします。

フランス近代音楽の旗手、クロード・ドビュッシー（1862-1918）のピアノ曲の研究、無名の独奏曲の発掘をしながら録音を重ね、この度お蔭さまで第4集を出す事が出来ました。

今回は「亜麻色の髪の乙女」「沈める寺」を含んだ12曲から成る代表作「プレリュード第1集」を中心に、最晩年の傑作「エチュード集」より2曲、更に同エチュードの第11番「アルペジオのために」の第一草稿など3曲の世界初録音曲を含む、演奏される事の稀な作品も取り扱いました。



「アルペジオのために」の第一草稿は、現在の決定稿とは全く異なる曲で、ドビュッシーの死後の1921年に妻のエンマが「M・F・ガイヤール氏に」とサインし手渡された跡が見受けられ、その後1979年まで個人のコレクションとして保管され忘れ去られていた作品です。楽譜の筆跡を見ると、完結こそしているものの、恐らくドビュッシーが着想して急いで書き留めるため一気にメモしたと思われる文字通り“走り書き”で、5線上の音符の位置、和音構成が判別しにくいだけでなく、2段目からは既に音部呼号（ト音、ヘ音記号）も省かれ始め、ページが進むにつれ#、b等も多々省略され、4ページ目では最低限必要なメロディーと低音、又はメロディーのみの部分もあるため、1980年にドビュッシーの研究者R・ハート氏が大幅に加筆、部分的に作曲し、「見つけ出されたエチュード」と命名しアメリカで出版されました。従ってこの1980年の修正版の録音は既にありますが、時に音部記号の読み間違い、書かれていない繰り返し、推測による和声加筆等が多すぎの為、とてもドビュッシーのものとは言い難く、これを修正し極力原型のスケッチの状態に戻すべく、ドビュッシーからそのピアノ演奏法を後世に伝えるべく指名され直接教えを受けたM・ロン女史の、更にその後継者としてその全てを伝え聞いた恩師のG・ムニエ女史と共に再考察し、録音したものです。

この他、ドビュッシーの出版元であるデュラン社へ足を運び、その倉庫で見つけた舞踊劇「カンマ」から作曲者自身がピアノ独奏曲として抜粋し再編集した「カンマのダンス」、カンタータ「放蕩息子」からの前奏曲の抜粋（これは同曲の歌パートのピアノ伴奏譜つき版の前奏曲と同じものですが、やはりドビュッシー自身によってピアノピースとして抜粋された事を確認しました）等、これらの曲をさらにピアノ曲としても広めたいという作曲者の願いを伝えるべく、彼のピアノ作品として是非仲間に入れて欲しい作品として収録しました。

若いドビュッシー初のピアノ曲「ボヘミア舞曲」、1909年にハイドン100年を記念して依頼された「ハイドンを讃えて」、幻想的な「スケッチ帳から」等と共に、どうぞこのCDをお聴き頂ければ幸いです。

伊藤 隆之

「失われしマグロを求めて」？

フランス語の仮名表記について

井土 真杉

いまテレビのフランス語講座にVincent君という若者が出ているのだが、いつも日本語の字幕ではヴァンソンと表記されている。昔から日本ではサン・ヴァンサン通り、ヴァンサン・ゴーク（ゴッホ）などと、サの字で表すのが通例だったのに、わざわざソと書いたのは、vingt-cinq（25）とは発音が違いますよということ、つまり〔ā〕と〔ɛ〕の違いを強調したいのだろうと推察される。

外国語はみなそうだがフランスの言葉を日本字で表すのは難しい。Romain Rolland と Yves Saint Laurentがおなじローランという仮名で表されていることを知ったら、フランス人は〔r〕と〔l〕、〔l〕と〔r〕に区別がないなど信じられないと顔をしかめるだろう。とりわけそれが自分の名にかかわってくればなおのこと、たとえば日本字の名刺を作るときなど、なんとかフランスの発音に近い仮名を探すのも無理はない。ヴァンソンのように。

だがそれにはムリがあり、新たな混乱さえ生むように思える。

たとえばもしJeanさんがヴァンソンに倣ってジャンでなくジョンと書いたとしよう。多くの日本人は彼がジャン・ギャバンJean Gabinやジャン・ポール・サルトルJean-Paul Sartreとおなじ名前を持ち主だとは決して思わず、ジョン・ウエインやジョン・レノンのJohnと同名であると信じて疑わないであろう。

またヴァンソンと書いたのを日本人に読ませて、多少発音が本物に近くなったと喜んだとしても、ではそのソン〔sā〕とgarçonギャルソンやchansonシャンソンのソン〔sɔ〕との大きな違いをどう表現してくれるのか、という矛盾も発生してくるのである。

雄鶏の声をよくよく聞けば決してコケコッコーなどと言っていないのに、「コケコッコー」と書けば日本人は鶏の鳴き声だと思ってくれる（鶏にも言い分はあるが）。同様に、フランス語も所詮は仮名で書き表せないのだから、そこは大きな矛盾をはらみつつも長年日本で慣習となった仮名表記に従っていただくを得ないのではなからうか。

「ア・ラ・ルシエルシュ・デュ・タン・ペルデュ」と書いてあれば、「失われし時を求めて」だとすぐ浮かぶものが、ヴァンソンの手法でtempsを「トン」などと書かれると「失われた音調ton、マグロthon」などと余分な詮索をしなければなくなるのである。



荒木まどかさんが国連欧州本部で演奏

リヨンやジュネーブで音楽活動をしているハーピスト・荒木まどかさん（25歳・津市出身）が9月1日、ジュネーブの国連欧州本部での式典で演奏を披露しました。2003年、バグダッドで起きた国連事務所爆弾テロの犠牲者24人を追悼する式典が、潘基文事務総長や遺族らが列席して開催されましたが、そのバックミュージックのような形で、ヴァイオリンとハーブの演奏がおこなわれたもの。荒木さんはラヴェルの「亡き王女のためのパヴァーヌ」などを演奏しましたが、「こんな場で演奏することの意味を考えさせられ、よい経験になりました」と本紙にメールを寄せてくれました。このニュースは共同通信の配信で日本の各紙に掲載されましたが、信濃毎日新聞の写真を転載させてもらいます。

1日ジュネーブで開かれた国連事務所爆弾テロ追悼式典で、演奏する岡本伸一郎さん（左）と荒木まどかさん（共同）



鎮魂の音色 日本人演奏
イラクの国連テロ追悼式

リヨン、ブルゴーニュへの旅 準備あそび

日仏修好150年を記念してのフランス旅行は、11月18日から25日までの予定で準備がすすんでいます。参加者は会員とその知人ら14名。リヨンからブルゴーニュの各地（パレ・ル・モニアル、ル・クルーズ、シャトーヌフに宿泊）をめぐるパリから帰国の予定。

旅の眼目として：

1. '08ヌヴォー酒の解禁日をボジョレー地区で体験。
2. 食糧自給率130% フランス農村の風景と生活文化（特にワイン）を味わう。
3. 「ロマネスクの宝石箱・巡礼の聖地」ブルゴーニュで、ヴェズレー、オータン、ブランシオンなどの中世の歴史的な建造物に接する。
4. 古都リヨンの散策と現地友人との交歓。などをめざしています。

11/21～24 荒木めぐみ 香合と人形・あそび道具展

荒木さん（三重日仏協会会員）が制作した張子を中心とする遊び道具展。
会期中13時から1時間は「貝合わせ」などの遊びも行います。

11月21日(金)から11月24日(月) 10時～17時

四日市市立博物館 2F市民ギャラリー（入場無料）

<☆P1の続き>

<ルリユール(製本・装丁)教室>

◇簡単製本講座

文庫本の改装、和綴じ、交差式ルリユールなど製作指導

講師：鈴木敬子

第3日曜日 10時 県総合文化センター 14時 鈴鹿市 鈴木敬子アトリエ

問い合わせ:050-1235-8088 (鈴木)